

企画展
亀岡を掘る



亀岡で発掘された
イッピンが勢ぞろい!



鳥の形をした
珍しいフタ



発掘された 京都の歴史 2024



丹後国分寺跡
で新たな発見!

主催：京都府教育委員会 / 公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
協賛：向日市教育委員会 / 亀岡市



向日市文化資料館

京都府向日市寺戸町南垣内 40-1

8.3(土) - 8.25(日)

(京都府立山城郷土資料館)

ふるさとミュージアム山城

京都府木津川市山城町上粕千両岩

9.4(水) - 9.16(月祝)

亀岡市文化資料館

京都府亀岡市古世町中内坪1

9.28(土) - 10.27(日)



色とりどりのガラス玉

おまじないに
使ったお皿



関連イベント開催!

第155回埋蔵文化財セミナー
「京都府内の発掘成果速報」

8月4日(日) 14:00 -
永守重信市民会館 (向日市)

「発掘された京都の歴史 2024」
展示解説

9月7日(土) 13:30 -
ふるさとミュージアム山城 (木津川市)

「発掘された京都の歴史 2024」
展示解説

10月5日(土) 13:30 -
亀岡市文化資料館 (亀岡市)

展覧会の開催にあたって

本展覧会は、発掘調査で出土した遺構や遺物を通じて埋蔵文化財への興味や関心を府民のみなさまにもっていただくことを目的に、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが共催で開催しています。

今回の展覧会は、発掘調査の速報展示と企画展示の2部構成で実施します。速報展示では、令和5年度に京都府内で実施された発掘調査などの成果を出土遺物や写真パネルなどを用いて紹介します。また、企画展示では、「亀岡を掘る」と題して、当調査研究センターが高速道路建設やほ場整備などに伴いこれまでに発掘調査した遺物の中から優品を選抜して、亀岡市の歴史・文化を紹介しようとするものです。

展示にあたっては、より分かりやすく、親しみやすくなるように心がけました。いにしえの世界をお楽しみください。

結びにあたり、今回の展覧会を協賛いただいた向日市教育委員会、亀岡市をはじめ、様々なご協力を賜った関係機関に対し、深く感謝いたします。

令和6年8月

京都府教育委員会

公益財団法人

京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡 例

1. 本図録は、「発掘された京都の歴史 2024」(向日市文化資料館:令和6年8月3日(土)～8月25日(日)、ふるさとミュージアム山城:同9月4日(水)～9月16日(月・祝)、亀岡市文化資料館:同9月28日(土)～10月27日(日)開催)の展示図録です。
2. 展示資料は、主催者及び府内各機関が主に令和4・5年度に発掘調査・整理報告作業を実施した遺跡の遺構・遺物及び京都府埋蔵文化財調査研究センターが亀岡市内で調査した遺跡の遺構・遺物を対象としています。
3. 本図録に掲載した資料は、展示品のすべてではありません。また、展示の都合により展示品と図録掲載品が異なる場合があります。
4. 本展覧会は、令和6年度国宝・重要文化財等保存・活用事業費補助金(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費)を受けて実施しています。
5. 本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては次の機関から御指導・御協力をいただきました。
(順不同・敬称略) 舞鶴市、福知山市教育委員会、亀岡市、京都市、京都市考古資料館、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、長岡京市教育委員会、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター、八幡市教育委員会、城陽市教育委員会、名古屋市教育委員会
6. 本図録の掲載写真は、主催者撮影のもののほかは、上記の機関から提供を受けたものです。

発掘された 京都の歴史 2024

kyu sekki
旧石器

ちごの
稚児野遺跡

福知山市夜久野町井田

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

稚児野遺跡は、由良川の支流である牧川を見下ろす標高 100 m の台地上に立地しています。

令和元年度から 3 年度にかけての調査で、後期旧石器時代前半（3 万 6 千年前）のサヌカイト及びチャート製のナイフ形石器、台形様石器、シルト岩製の刃部磨製石斧などからなる二つの石器集中部（ブロック群）を検出しました。一つのブロック群は環状ブロックを構成していました。令和 5 年度の調査は、その二つの石器群の中間地点で行いましたが、少量の石器しか出土せず、ブロック群の間に空地が存在することが明らかになりました。



調査区全景（西から）



シルト岩製の刃部磨製石斧
(左：令和 5 年度出土、右：令和 3 年度出土)

jomon
縄文

さやり ちよかわ
佐屋利遺跡・千代川遺跡

京丹後市峰山町荒山
亀岡市千代川町北ノ庄

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

ゆうぜつせんとうき
有舌尖頭器は、今から約 1 万 6 千年～1 万 1 千年前の縄文時代草創期に作られた槍の穂先と考えられます。

佐屋利遺跡から出土した 2 点は、奈良県や香川県の一部でしか採れないサヌカイトと呼ばれる石で作られています。サヌカイトは、縄文時代から弥生時代にかけて近畿地方のいたるところで使われ、「原始の鉄」とよばれることもあります。

千代川遺跡から出土した石器は、緑がかったガラス質のチャートと呼ばれる石で作られています。この石器の表面には、細かく丁寧に石を押し剥がした様子がよく観察でき、石器を作った人の技術の高さがうかがえます。



佐屋利遺跡（左 2 点）と千代川遺跡（右）から出土した有舌尖頭器

へい
平遺跡

京丹後市丹後町平

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

平遺跡は、日本海に面した砂丘上に立地する縄文時代から中世にかけての集落遺跡です。令和5年度の調査では、中世の掘立柱建物と縄文時代後期から中世にかけての土石流跡や小さな谷の堆積が見つかりました。調査地はたびたび土石流災害にさらされていたようです。

谷の堆積から出土した土器の表面が擦り減っていないことから、縄文時代から中世にかけて、人びとが調査地の付近で生活していたと考えられます。



調査地遠景（南上空から）



出土した縄文時代後期の土器片

なかくぜ
中久世遺跡

京都市南区久世中久世町

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所 調査

中久世遺跡は、弥生時代の集落が数多く営まれる桂川右岸の沖積地に位置します。調査地は、遺跡のほぼ中央部に当たります。

円形竪穴住居5棟、方形竪穴住居5棟、土坑などが検出されました。円形竪穴住居は中期に営まれ、方形竪穴住居のうち4棟は後期に営まれており、住居の形が円形から方形に変わる様子がわかります。住居の中央部からは、灰が詰まった炉跡が見つかりました。

弥生土器のほか、^{ふどがたはまぐりば}太型蛤刃石斧や^{せきぞく}石鏃などの石器が出土しました。



調査地全景（北東から）
(京都市埋蔵文化財研究所提供)



弥生時代後期の土器（左・中央：壺、右：甕）

たた 石と太型蛤刃石斧

たにし
ソブ谷西墳墓群 与謝野町幾地

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

ソブ谷西墳墓群は、幾地集落を眼下に望む幾地城跡の発掘調査によって、新たに見つかった弥生時代後期の台状墓です。

尾根の先端部を平坦に造成して、埋葬空間を確保し、木棺墓3基、土壙墓3基、土器棺墓1基を営んでいました。

木棺墓の中には、当時貴重だった鉄製の剣ややりがんなを副葬するものがありました。また、木棺の蓋を閉めたあと、葬送儀礼に使ったと思われる壺や甕、鉢、高杯などの土器を、割ってばらまいていた(破碎供献)ことがわかりました。

弥生時代後期の近畿北部は、埋葬にあたって、鉄製品を副葬することが多く、この時期、日本海をわたって朝鮮半島から多くの鉄製品が近畿北部にもたらされたことがわかります。



右上：尾根先端に営まれた埋葬施設
右下：墓に破碎供献された弥生土器（左4点）
土器棺として利用された甕（右端）

はいだ
拝田14号墳

亀岡市千代川町拝田

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

拝田14号墳は、後期の古墳群として知られる拝田古墳群の一角に位置しています。今回は、古墳の墳形や規模を知るために部分的な調査を実施しました。

その結果、中期初頭に営まれた直径30mほどの円墳であることがわかりました。墳丘は2段築成で、周囲に周溝がありました。

墳丘の表面には、葺石が敷かれ、1段目の平坦面には円筒埴輪を樹立していました。周溝内からも多数の埴輪片が出土しました。墳頂部での土層断面の観察から、当時首長墳によくみられる割竹形木棺を採用していたようです。



拝田14号墳全景（北から）



円筒埴輪下段

朝顔形埴輪、葺石形埴輪ほか



葺石・埴輪列検出状況

久津川車塚古墳は、大谷川の扇状地のほぼ中央に位置する山城地域最大の前方後円墳です。全長 175 m の墳丘は 3 段築成で、外濠を含めた南北長は、約 272 m を測ります。

後円部東側の調査では、中段斜面裾部、下段テラス、下段斜面、墳丘裾部が確認され、後円部東側の墳丘各部の構造・規模が明らかになりました。また、東側造り出し想定位置の調査では、造り出しは見つからず、平野部側にのみ造り出しがある可能性が高くなりました。



後円部下段テラスの埴輪列（北東から）
（城陽市教育委員会提供）



後円部墳丘裾部の状況（東から）
（城陽市教育委員会提供）

川上南古墳群は、JR 福知山駅南西側の丘陵上、景初四年銘盤龍鏡が出土した広峯古墳群と向野古墳群の間に位置します。

5号墳は6世紀中頃に営まれた直径約 17 m ・高さ約 3 m の円墳で、長さ 4.4 m ・幅 1.1 m の大型の組合せ式木棺を直接墳丘に埋めて埋葬施設としていました。木棺の小口は石混じりの粘土を用いており、棺内から鉄刀 1 点、小刀 1 点、ガラス小玉約 80 点が出土しました。棺上からは、土師器高杯 1 点・壺 1 点、須恵器提瓶 1 点、小刀 1 点、鉄鏃 2 点、棺外からは、須恵器杯身・杯蓋各 4 点、高杯 1 点が出土しました。19号墳は長辺約 17 m ・短辺約 10 m ・高さ 0.5 ～ 1.5 m の方墳で、5号墳と同じ構造の長さ 3.3 m の組合せ式木棺を直接墳丘に埋めて埋葬施設としており、棺内の出土遺物は無く、棺上に須恵器杯身・杯蓋と土師器壺及び鉄鏃が置かれていたようです。



右上写真 5号墳埋葬施設検出状況
（福知山市教育委員会提供）

右下写真 5号墳から出土した須恵器の一部

芝山古墳群は、城陽市東部の丘陵上に広がる古墳群です。これまでの調査で4世紀前半～6世紀末に築造された5～27mの方墳や円墳が39基確認されています。

令和5年度の調査では、直径約27mを測る円墳（V-2号墳）の中央部から一部が上下に重なる2基の埋葬施設を検出しました。上層の埋葬施設2は南北方向に長さ3m・幅93cmの木棺を直接墳丘に埋めたもので、内面に朱が塗られていたようです。木棺からは須恵器16点、銀製耳環2点、ガラス製小玉2点、小刀1点が出土しました。下層の埋葬施設1も南北方向の木棺直葬で、埋葬施設2により南西部分が壊されていました。木棺は長さ3.07m・幅94cm・高さ50cmあり、内面に朱が塗られていたようです。木棺からは須恵器28点、土師器1点、鉄刀1点、鉄鏃6点、小刀2点、ガラス製小玉34点が出土しました。

V-2号墳は、芝山古墳群では墳丘規模が最も大きな古墳です。また、墳丘の上下に埋葬施設を築くことは珍しく、築造時期は、ともに出土した須恵器から6世紀中頃と考えられます。下層の埋葬施設の被葬者は、墳丘規模、鉄刀やガラス製小玉の副葬、多数の土器の出土などから、芝山古墳群の被葬者の中でも有力な人物と考えられます。



上層の埋葬施設2



下層の埋葬施設1



上下に重なって見つかった埋葬施設（断面合成写真）



下層の埋葬施設1から出土した土器

芝古墳は、別名芝1号墳とも呼ばれ、善峰川^{よしみね}南方の低位段丘の北縁部、標高50mに立地します。乙訓地域の首長墳11基から構成される国史跡である乙訓古墳群のうちの1基です。また、14基からなる芝古墳群の中で唯一の前方後円墳で、芝古墳の造営を契機に古墳群が営まれたと考えられています。

平成25年度から平成29年度にかけて行われた調査により、古墳時代後期前葉（6世紀前葉）の古墳であることが判明しています。墳丘長32m・高さ2.5～3mを測り、南北方向に主軸を持ちます。後円部の中央から横穴式石室1基が見つかり、石室内^{げんしつ}（玄室）は幅1.55m・長さ3.8mの規模で、長さ2m以上の羨道^{せんどう}がとりついていました。

副葬品として石室内から土師器高杯、須恵器の高杯や壺、白玉、鉄器、馬具などが出土しています。また、石材採取土坑から装飾須恵器に伴う小像が3点出土しています。小像は、弓を引く人・犬・猪と考えられ、犬には、粘土紐による首輪の表現がされています。

令和4年度から実施されていた芝古墳の公園としての整備工事が完了し、令和6年3月に開園しました。



整備された芝古墳（前方部、南西から）



石室内から出土した土師器と須恵器



装飾須恵器に伴う小像（左から弓を引く人、犬、猪）

ほうき
法貴古墳群

亀岡市曾我部町法貴

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

法貴古墳群は、亀岡盆地南西部^{れいせんがたけ}霊仙ヶ岳の山麓に造られた、横穴式石室を埋葬施設とする67基の古墳からなる群集墳です。令和4年度から継続して調査を実施しています。令和5年度は、A地区とB地区で調査しました。

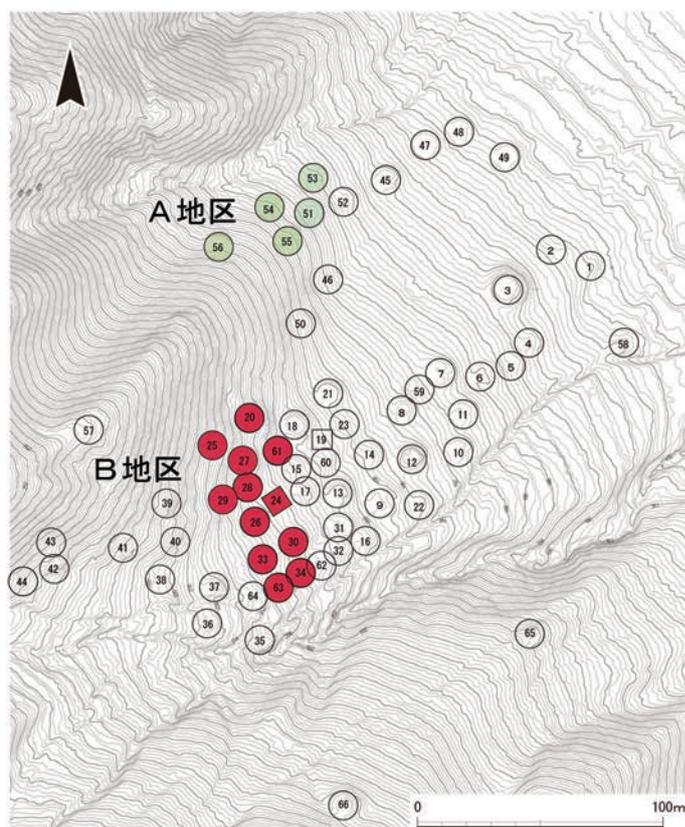
B地区の調査では、12基の古墳の調査を開始しました。調査は令和6年度に継続しています。令和5年度内に調査の進んだ古墳について紹介します。

24号墳は、長辺約10m・短辺約7mを測る方墳です。墳丘は2段築成で、墳丘裾には石垣状の列石が二重に回ります。石室の形状などから7世紀中頃の築造と考えられます。

33号墳は、直径約8mの円墳で、須恵器の杯身・杯蓋、平瓶、土師器杯などが出土しました。土器から7世紀前半に築かれたことがわかります。

34号墳は、直径約8mの円墳で、全長約4.3m・幅約0.9mの無袖の石室内から^{さやじり}靴尻金具をもつ鉄刀や鉄鏃が飛鳥時代の須恵器とともに出土しました。

これまでの調査で、A地区で6世紀中頃に方形プランの玄室をもつ56号墳が築かれ、その後7世紀中頃の飛鳥時代まで古墳が築かれ続けることがわかりました。前年度のA地区の調査では、8世紀前半の火葬墓も見つかっており、古墳時代後期、飛鳥時代、奈良時代へ至る墓域での造墓の様子が明らかになりつつあります。



法貴古墳群分布図（調査対象を着色）



24号墳全景（調査途中 南東から）



34号墳石室内遺物出土状況



33号墳から出土した土師器と須恵器



34号墳出土靴尻金具をもつ鉄刀

カンジョガキ遺跡

京丹後市大宮町周枳

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

カンジョガキ遺跡は中郡盆地の南東部、竹野川右岸の谷奥に位置しており、付近には延喜式内社の大宮^{おおみや}賣^め神社があります。令和5年度の調査では谷部の西側斜面を中心に横穴墓^{おうけつぼ}を5基確認しました。

竹野川右岸の大宮町域の丘陵部には、南から有明横穴群^{ありあけ}、大田ヶ鼻横穴群^{おおたがはな}、里ヶ谷横穴群^{さとがたに}、左坂横穴群^{ささか}と数多くの横穴墓が存在します。調査の結果、これらの横穴墓が6世紀末から8世紀初めまでに営まれたことがわかっています。今回のカンジョガキ遺跡での横穴の発見から、横穴墓の分布がさらに北に広がることわかりました。

横穴墓の中からは須恵器や土師器が出土しています。5基の横穴墓は、7世紀初め頃から8世紀前半にかけておよそ100年間にわたり利用されており、時代とともに横穴墓の形態が変化することが明らかになりました。また、2つの横穴墓の内部からは焼骨が出土しており、亡くなった人が火葬されたことがわかりました。西暦700年に日本で初めての火葬^{しよくにほんぎ}が行われたことが『続日本紀』に記録されており、カンジョガキ遺跡の火葬もその直後の時代のものと考えられます。左坂横穴群でも8世紀前半の火葬墓が見つかり、丹後地域に火葬の風習が早くに流入したことがわかります。火葬は当時の有力者階級に普及した

とされています。カンジョガキ遺跡で見つかった横穴墓の被葬者は、近在の有力者だったのかもしれませんが。



D 地区 3号横穴調査状況



D 地区 3号横穴出土須恵器



カンジョガキ遺跡遠景（東から）



鳥鈕蓋（高さ 5.1cm）

久保川遺跡は、天王山の裾、標高 26m ほどの扇状地上に立地します。過去の調査では、古代の庭園の州浜^{すはま}と評価された礫敷き遺構が検出され（長岡京跡右京第 735・786・884 次）、「大宅」「麻呂」「大」「宅」「富」などの奈良時代後半の墨書土器（右京第 873 次）が出土しており、奈良時代後半から平安時代にかけての貴族の屋敷などの存在が想定されています。令和 4 年度の調査では、奈良時代後期の愛知県猿投窯^{さなげよう}で作られた珍しい灰釉陶器^{かいゆうとうき}の鳥鈕蓋^{とりちゆうふた}が出土しました。



参考：名古屋市 NN259 号窯出土鳥鈕蓋
（名古屋市教育委員会蔵）



乙訓寺創建期瓦と同型式の軒丸瓦

右京六条二坊十一・十四町の北辺部では、街路整備に伴う調査が進んでいます。右京第 1262・1277 次調査では、直線的に計画された奈良時代の溝から、乙訓寺創建期瓦と同型式の軒丸瓦が出土しており、長岡京期以前の古代寺院が存在したことを示唆するものとして注目されています。また、長岡京期の六条条間小路南側溝も見つかっています。

右京第 1255 次調査では、六条条間小路南側溝と西二坊坊間西小路東側溝の交差点が見つかり、土師器や須恵器など多くの土器が出土しました。

このほか、右京第 1262 次調査では六条条間小路の路面を大きく掘り込む平安時代の遺構から、長岡宮式の軒丸瓦が出土しています。



長岡宮式軒丸瓦



六条条間小路南側溝出土の土師器と須恵器

いのうち
井ノ内遺跡

長岡京市粟生

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

井ノ内遺跡（長岡京跡右京第1282次）では、古墳時代の竪穴住居や土坑・溝などと平安時代後期から中世にかけての掘立柱建物・井戸などが見つかりました

平安時代の井戸は、検出面での掘形が約3m四方で、深さは2.3mを測ります。井戸の構築部材は抜き取られていましたが、おそらく板組の井戸であったと考えられます。井戸の中には平安時代後期の土師器皿が重なり合った状態で捨てられていました。これらの土師器皿の幾つかは灯明皿として利用されていました。また、少量ながら瓦器碗も出土しています。



井戸出土土器



井戸が見つかった調査区（東から）

にょう
女布遺跡

舞鶴市女布

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

女布遺跡は、西舞鶴地区南西部のなだらかな谷平野に位置する弥生時代から続く集落遺跡です。

令和5年度の調査は遺跡の上流側で行い、平安時代末期から中世にかけての掘立柱建物群と平安時代末期の土壙墓を検出しました。

土壙墓からは、中国製白磁碗と白磁皿が出土しました。出土遺物から11世紀後半から12世紀初め頃に営まれたものと思われます。

なお、約3万年前に鹿児島湾付近からもたらされた始良火山灰の堆積も確認しています。



左：調査地遠景（南から）、上：白磁の碗と皿

千代川遺跡は、亀岡市の北方、大堰川の西岸のなだらかな丘陵から平地にかけて位置する東西1.4km・南北1.9kmの広大な遺跡です。京都縦貫道や府道建設、国府推定地の範囲確認調査などに伴い発掘調査が実施され、縄文時代から続く人々の営みの痕跡が明らかになっています。この調査は、35回目の調査になります。

調査では縄文時代の有舌尖頭器が出土し、古墳時代の流路、竪穴住居及び鎌倉時代を中心とした中世の掘立柱建物や井戸、土坑を検出しました。調査は、複数の地区で実施しましたが、ここでは、遺跡の北西部で行ったA地区の中世の成果について紹介します。

A3区では、南北棟の掘立柱建物3棟、井戸2基、耕作溝などを検出しました。掘立柱建物に接して、石組の井戸と素掘りの井戸が見つかりました。素掘りの井戸の中から多量の瓦器碗や土師器皿が出土しました。

A4区では、掘立柱建物と土墳墓を検出しました。土墳墓からは短刀と土師器皿5枚が出土しました。

両地区は中世後期には耕作地に変化したようです。



A3区全景（北から）



素掘り井戸土器出土状況



土墳墓短刀・土師器皿出土状況



井戸内から出土した瓦器碗と土師器皿



墓に供えられた短刀と土師器皿

特別名勝天橋立を望む台地上に位置する丹後国分寺跡は、現在、金堂跡に34石、塔跡に16石、中門跡に2石の礎石^{そせき}が整然と並んだ状態で残っています。これらの礎石が、14世紀に書かれた『丹後国分寺再興縁起』に記された配置と一致することから、中世の国分寺跡が良好な状態で残っていることが分かり、昭和5年に国史跡に指定されました。

しかし、史跡指定が早かったこともあり、これまで史跡内の発掘調査が行われず、そのほかの建物などの実態が判明していませんでした。そのため、京都府教育委員会では、令和3年度から史跡の内要確認のための発掘調査を開始し、令和5年度の調査では、これまで知られていなかった礎石建物を検出しました。

礎石建物は南北20尺(約6m)、東西38尺(約11.4m)の規模で、前面には石垣が組まれています。石垣には階段が2カ所に作られていました。出土遺物から、14～15世紀の建物と判明しました。ただし、出土した瓦は古代のものばかりで、前身の建物を取り壊し、新たに建てた建物と考えられます。この建物は、雪舟が描いた天橋立図にも描写されていたものと考えられます。詳細な性格は不明ながら、『丹後国分寺再興縁起』の記述から、僧坊の可能性がります。



調査地全景 (北西から)



石垣と階段



平安時代の軒丸瓦・軒平瓦

さ や り
佐屋利遺跡

京丹後市峰山町荒山

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査



佐屋利遺跡は中郡盆地を眼下に臨む、竹野川右岸の段丘縁辺部に立地する集落遺跡です。

令和5年度の調査では、検出長約36m、幅8m以上、深さ約5mを測る大規模な堀を見つけました。堀の中からは、戦国時代の土師器、須恵器、国産陶磁器、輸入陶磁器が出土しています。堀は何回かにわたって浚渫しゅんせつされていましたが、最後は一度に埋め立てられたようです。埋め立てられた土の中から、16世紀後半の黒楽茶椀くろらくの破片がみつかりました。この時期の楽茶椀は希少品であったことから、その所有者は茶の湯を主導した千利休周辺せんりのりきゅうとつながりのある人物と推測されます。また、堀の埋め立ては、本能寺の変の後、丹後守護職であった一色氏いっしきが滅亡し、城割しろわり（城郭の破却）が行われたこととの関連性がうかがえます。



巨大な堀（上）と埋め立て土から出土した黒楽茶椀片（右）

edo
江戸

たなべじょう

田辺城跡

舞鶴市南田辺

舞鶴市 調査

細川藤孝ふじたか（幽齋ゆうさい）が舞鶴湾を眼前に田辺城を完成させたのは天正19（1591）年頃だとされています。慶長5（1600）年には、関ヶ原の合戦の前哨戦の一つ「田辺籠城戦らうじょう」の舞台となります。調査では、本丸の南側の堀に面する石垣が見つかりました。石垣はその積み方から2時期あり、「田辺籠城図」に見られる細川期の石垣きやうごくに京極期たかとも（1601年京極高知入城）に手を加えたものと考えられます。新しい石垣の裏側からは、細川期の大手門に相当する虎口の一部の遺構も見つかりました。



調査地全景（東から）
（舞鶴市提供）



石垣全景（南東から）
（舞鶴市提供）

きたの
北野遺跡

京都市北区北野下白梅町

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 調査

北野遺跡は、平安京の北端、一条大路に接する遺跡で、東側には北野天満宮が存在します。室町時代から江戸時代の遺構面で土師器埋納遺構が検出されました。

埋納遺構は、直径0.3 m余りの不整形円で深さは約0.2 m、断面形状は播鉢状を呈します。底付近の石英粒を含む土の上から、石英粒を納めた土師器皿2枚が互いの口縁を合わせた状態で出土しました。皿の内面には、「中央黄帝龍王安鎮守護」「三元三行三妙加持」などの墨書があり、神道の地鎮に際して営まれた遺構と判断されます。皿内から出土した石英は、鎮物として納められる五色の弊などの代わりに用いられたのでしょうか。



土師器皿出土状況
(京都市埋蔵文化財研究所提供)



墨書のある土師器皿

はしもとじんや
橋本陣屋跡

八幡市橋本

八幡市教育委員会 調査

安政5(1858)年2月に京都護衛を「一際手厚くなるへし」との勅旨を受けて、八幡近辺に陣屋と台場の設置が計画され、翌年に橋本陣屋が設置されました。その敷地面積は5,000坪(約16,500㎡)と記録されています。慶応4(1868)年正月、鳥羽伏見の戦いに際し、長州藩により焼き払われてしまいました。

検出した主な遺構は、平面コの字形に曲がる石垣とその内側で検出した掘立柱建物があります。その構造と残された絵図から厩跡と考えられます。陶磁器、土師器、瓦などが出土しました。陶磁器には、江戸時代後期以前の伝世品が含まれています。



石垣が築かれた厩跡
(八幡市教育委員会提供)



出土した陶磁器類

速報展示出品目録

	時代	遺跡名	出土地	出展品	所有者（保管者）
1	旧石器時代	稚児野遺跡	福知山市	刃部磨製石斧 2	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
2	縄文時代	佐屋利遺跡 千代川遺跡	京丹後市 亀岡市	有舌尖頭器 3	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
3	縄文時代	平遺跡	京丹後市	縄文土器片 5、石鏃 5	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
4	弥生時代	中久世遺跡	京都市	弥生土器 6、石器 5	京都市考古資料館
5	弥生時代	ソブ谷西墳墓群	与謝野町	弥生土器 5	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
6	古墳時代	拝田 14 号墳	亀岡市	円筒埴輪基部、埴輪片 6	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
7	古墳時代	国史跡久津川車塚古墳	城陽市	パネル展示	城陽市教育委員会
8	古墳時代	川上南古墳群	福知山市	須恵器 6、土師器 1、ガラス小玉	福知山市教育委員会
9	古墳時代	芝山古墳群 V-2 号墳	城陽市	土師器 1、須恵器 11	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
10	古墳時代	芝古墳 (国史跡乙訓古墳群)	京都市	土師器 1、須恵器 6、須恵器小像ほか 4	京都市
11	古墳時代	法貴古墳群	亀岡市	須恵器 5、土師器 1	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
12	飛鳥時代・奈良時代	カンジョガキ遺跡	京丹後市	須恵器 7	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
13	奈良時代	久保川遺跡	大山崎町	鳥紐蓋、須恵器 3、灰釉陶器 1、墨書土器 3	大山崎町教育委員会
14	長岡京期	長岡京跡右京・開田遺跡	長岡京市	土師器 2、須恵器 3、軒丸瓦 2	長岡京市教育委員会
15	平安時代	井ノ内遺跡	長岡京市	土師器 12、瓦器 1	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
16	平安時代	女布遺跡	舞鶴市	白磁椀 1、白磁皿 4	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
17	鎌倉時代	千代川遺跡	亀岡市	土師器 10、瓦器 3、短刀 1	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
18	室町時代	国史跡丹後国分寺跡	宮津市	軒瓦 5、須恵器 3、土師器 3、青磁椀 3、金属器 1	京都府教育委員会
19	室町時代・戦国時代	佐屋利遺跡	京丹後市	灰釉陶器 1、瓦質土器 2、焼締陶器 2、楽焼 1	(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
20	江戸時代	田辺城跡	舞鶴市	パネル展示	舞鶴市
21	江戸時代	北野遺跡	京都市	土師器皿 2	京都市考古資料館
22	江戸時代	橋本陣屋跡	八幡市	陶磁器類 10	八幡市教育委員会

当調査研究センターでは、昭和56年度の発足以来、亀岡盆地において、京都縦貫自動車道をはじめ国道・府道の建設、国営・府営事業によるほ場整備の実施、河川改修などに伴って、多くの発掘調査を実施してきました。

今回の企画展示では、過去40年余りの調査成果の中から、時代ごとに代表的な遺跡と出土品を紹介し、京都府中部の亀岡盆地の歴史に触れてみる機会としました。



遺跡位置図

縄文時代

亀岡盆地では、竪穴住居や墓などの具体的な生活の痕跡は見つかりませんが、土器や石器などの遺物や陥し穴などの存在から、人々の暮らしの一端をうかがうことができます。

縄文時代草創期（約1万6千～1万1千年前）の有舌尖頭器が千代川遺跡などで見つかり、鹿谷遺跡から出土した黒曜石の木葉形尖頭器も同じころのものと考えられます。最も古い土器は、案察使遺跡や蔵垣内遺跡で出土した早期の押型文土器（約8千年前）です。時塚遺跡では、中期末（約4千5百年前）の土器や狩猟用の石鏃、陥し穴などが、車塚遺跡では、後期の土器（約4千年前）や石鏃・石斧が多数出土しました。車塚遺跡では出土遺物の量も増え、人びとが少しずつ増えていったようです。



時塚遺跡の陥し穴
(底に見えるのは杭の穴)



蔵垣内遺跡の縄文土器（早期）



時塚遺跡の縄文土器（中期末）



車塚遺跡の縄文土器（後期）

弥生時代

弥生時代になると、稲作などの農耕を中心とした暮らしになり、ムラを溝で囲んだ環濠集落かんごうしゅうらくを中心に、周囲に水田などの生産域と墓域が営まれるようになりました。

太田遺跡では、弥生時代前期末から中期初めごろ（約2,400年前）の集落を囲む2重の環濠が見つっています。

中期の時塚遺跡（約2100年前）では、多数の竪穴住居と方形周溝墓が見つっています。また土器や石器も多数出土しており、亀岡盆地を代表する集落の一つであることがわかりました。方形周溝墓からは、日常で使われていた土器が形を保って出土します。お墓で、葬送儀礼そうそうぎらいなどに伴い供えられたようです。また、刃部を鋭利に研いだ磨製の石剣も出土しています。

この頃の亀岡盆地あまるべ周辺には、時塚遺跡のほかに、余部遺跡いけがみや南丹市池上遺跡など幾つかの大きなムラが存在したようですが、弥生時代後期（約2,000年前）になるとこれらのムラは一斉に姿を消してしまうようです。



太田遺跡の2条の環濠



時塚遺跡の方形周溝墓



時塚遺跡方形周溝墓出土の弥生土器と石剣

古墳時代

亀岡盆地の北の園部盆地に古墳時代初頭の前方後円墳である黒田古墳（全長 52 m）や前期の前方後円墳の園部垣内古墳（全長 84 m）があり、この頃南丹波の中心は園部盆地にあったようです。

亀岡盆地には、前期後半から中期にかけて坊主塚古墳に代表される一辺 20 m から 50 m を測る中規模の方墳がたくさん築かれるようになります。その一つ時塚 1 号墳は、中期末（5 世紀後半）に築かれた一辺 24 m の方墳で短い造り出しをもちます。周溝内から出土した盾持ち人形埴輪は、耳の形は鋭く、眼の周りに入れ墨を入れた鋭い眼光を持ち、古墳を侵入者から守っていたようです。

古墳時代中期から後期にかけての集落である里遺跡、池尻遺跡、鹿谷遺跡、春日部遺跡などでは多数の竪穴住居が見つかりました。里遺跡には、一辺 8 m を測る大型の住居も見られます。池尻遺跡では、多数の住居を囲むように幅 4 ～ 6 m の溝が掘られていました。溝の底からは、子持ち勾玉が出土しました。大型の本体に小型の勾玉が作り出されています。祭祀に利用されたと考えられています。



時塚 1 号墳の周溝と造り出し



里遺跡の大小の竪穴住居群（南から）



池尻遺跡竪穴住居群（南東から）



時塚 1 号墳出土盾持ち人形埴輪



池尻遺跡出土子持ち勾玉

古墳時代後期初めには、全長 82 m の前方後円墳、ちとせくるまつか千歳車塚古墳（国史跡）が盆地の中央付近に営まれます。同じころ、盆地の南側でほづくるまつか保津車塚古墳（全長 53 m）が営まれます。発掘調査によって前方後円墳であることがわかり、周溝からは、土製の埴輪ではなく、形象埴輪をかたどった木製の埴輪（石見型いわみたてがたはにわ盾形埴輪）が出土しました。

6 世紀の中頃になると新たに横穴式石室を埋葬施設とする古墳群が築かれるようになります。はいだ拝田古墳群などでは、石棚をもつ天井の高い大きな石室が築られますが、多くの古墳群では、小型の横穴式石室をもつ古墳が多数築造されています。これらを「後期群集墳」と呼んでいます。

こくぶ国分古墳群は、古墳時代後期の終わりごろから飛鳥時代にかけて築造された群集墳の一つです。注目される古墳として、墳丘の平面形が八角形に復元できる国分 45 号墳があります。同墳は、国分古墳群でも最大級の横穴式石室を有しており、さらに、柄に銀線を巻きつけた装飾性の高い大刀が副葬されており、墳形と併せて考えると在地の有力者が埋葬されていたと考えられます。

このほかにも、多種類の須恵器や玉類、耳環などを副葬した古墳も多数見つかっています。

現在調査中の法貴古墳群も、古墳時代後期から飛鳥時代に営まれたことが明らかになり、墳形も飛鳥時代になると方墳が採用されることがわかっています。



保津車塚古墳全景（東から）



国分古墳群全景（北から）



国分 29 号墳石室



国分 45 号墳全景



国分 29 号墳出土須恵器（左）
国分 29 号墳出土装身具（上）
国分 45 号墳出土銀装大刀（右上）

奈良・平安時代

古代の亀岡盆地は、律令制のもとでの丹波国の中心地で、国府は亀岡市内にあり、付近に山陰道が設けられていたと考えられています。平成16年度の池尻遺跡の発掘調査で、国府跡の可能性も指摘された大型掘立柱建物群が見つっています。

奈良時代中頃に創建された丹波国分寺は、現在も法灯を伝え、隣接地は国史跡丹波国分寺跡として亀岡市教育委員会によって整備が行われています。近くの三日市遺跡^{みっかいち}では、丹波国分寺創建当初の瓦が多数出土し、付近に瓦工房が営まれていたと考えられます。



池尻遺跡で発見された大型掘立柱建物群



三日市遺跡出土瓦



三日市遺跡で見つかった瓦だまり



佐伯遺跡出土瓦

亀岡盆地では、古代寺院の造営が盛んで、桑寺^{くわてら}、廃寺^{はいじ}、観音芝廃寺^{かんのしば}、池尻廃寺^{いけじり}、與能廃寺^{よの}が知られています。佐伯遺跡の発掘調査では、遺構は見つからなかったものの多数の奈良時代の瓦が出土しました。軒丸瓦の中には綾部市綾中廃寺^{あやなか}出土のものと同じ範^{はん}を用いて作られたものがあることがわかり、両者の交流をうかがうことができます。



緑釉陶器などが焼成された篠西長尾5・6号窯（南から）

亀岡盆地南東部の丘陵斜面一帯には、須恵器や瓦を生産していた篠窯業生産遺跡群が広がります。奈良時代から平安時代にかけて百数十基の窯跡が営まれました。特に平安時代になると、平安京に須恵器や緑釉陶器、瓦などを供給するために生産量は飛躍的に増えたようです。篠窯業生産遺跡群では、斜面にトンネル状に掘られた須恵器を焼成した^{あながま}窖窯と、平地に三角形に掘り込まれた緑釉陶器などを焼成した小型三角窯が見つかりました。



2基並んだ窖窯・西長尾1・4号窯（西から）



篠窯業生産遺跡群で焼成された須恵器（左）と緑釉陶器（右）

中世

平安時代も終わりころになると、全国各地で武士が力を持つようになります。亀岡盆地では、武士の活動の一端をうかがわせるものとして、武士の居館^{きょくあん}と思われる遺構が見つっています。

犬飼遺跡^{いぬかい}では、13世紀後半から14世紀前半に営まれた巨大な堀で囲まれた方形居館跡が見つっています。居住者の手掛かりとなるような遺物や文献等の記録はありませんが、中国製の陶磁器や漆器碗などが出土していることから、地域の有力者が居住していたと考えられます。同遺跡からは、11世紀後半以降の地域の有力者を葬ったと考えられる青白磁^{せいぱくじ}の小壺と白磁碗を副葬した墓も見つっています。



犬飼遺跡で見つかった武士の居館（北から）



白磁碗と青白磁の小壺を副葬した墓と出土品

速報展示遺跡位置図



- 1. 平遺跡
- 2. 佐屋利遺跡
- 3. カンジョガキ遺跡
- 4. 丹後国分寺跡
- 5. ソブ谷西墳墓群
- 6. 田辺城跡
- 7. 女布遺跡
- 8. 稚見野遺跡
- 9. 川上南古墳群
- 10. 拝田14号墳

- 11. 千代川遺跡
- 12. 法貴古墳群
- 13. 北野遺跡
- 14. 中久世遺跡
- 15. 芝古墳
- 16. 井ノ内遺跡
- 17. 久保川遺跡
- 18. 橋本陣屋跡
- 19. 久津川車塚古墳
- 20. 芝山古墳群

「発掘された京都の歴史 2024」 展示図録

発行日 令和6年8月3日



編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
 〒617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189
 ホームページアドレス <https://www.kyotofu-maibun.or.jp>

